

令和4年度 沼上こども園・分園 施設自己評価について

今年度も、コロナの対応に左右された1年でした。当初の保育計画全体・年間・月・週を子どもの発達状況に合わせて作成してあるが、基本的な三蜜を避ける等の対応により、随時見直しを行いました。

行事や活動等は子どもの経験のためできるだけ中止にせず、実施する前提で計画をしました。昨年の反省を踏まえ、内容を精査し子どもの体験を損なわないように努力してまいりました。

令和4年度後半は、保育士の「不適切な行為」がクローズアップされ「保育教諭の質」が問われることとなりました。保育教諭にとって、子どもも保護者も対するのは人間であり、自分がされて嫌なことは人にしないのは人として当然です。そのことを踏まえ「人権擁護のためのセルフチェックリスト」にて、当園の実態を分析し改善すべきことを職員全体で周知しました。

通常保育としては、近隣の畑・園内の花壇での野菜づくりなど自然を生かした活動・食育は大変大切な活動なので、実施できるように対応しました。昨年同様、実施前後の手洗い、うがい、マスク着用に注意してまいりました。今後も、当園ならではの体験活動は、コロナ禍でも実施できるよう工夫していきたいと思います。

また、衛生面について各クラスでは、空気清浄機等を2台設置し常時窓を開けての換気も実施しています。二酸化炭素検知器も導入し数値により換気の頻度も増加させています。そんな中でも、子ども達は遊びを工夫し元気に活動していました。室内遊びも子どもの本やおもちゃも追加し、毎日密集しないように気を付けています。それに伴い衛生面の効率を図るため、BOXにて消毒できるものも用意するなどしております。

屋外の砂場や遊具は、引き続き安全面と衛生面から故障箇所含め早い対応を心掛けております。

以上の事を、職員全員で自己評価しました。これを踏まえ、まだまだ続くコロナに負けずに質の高い保育を目指してまいります。

令和5年3月 沼上こども園・分園園長 森下健二

令和4年度 自己評価公表

沼上こども園・分園

令和4年度11月実施

第1章 総則

ほとんどの設問が高評価ではあったが、法令を読みその内容を理解することに関しては低い評価が見られた。毎年この項目は低評価である。

保育に関わる仕事をしている以上、必ず知っておかなければならない法律は、やはり、各自一度目を通しておくべきだと思う。

特別支援教育・障がい児保育の項目については、関わる関わらないに関係なく、園全体の取組みとして、園の方向性や支援方法などの情報の共有、また個々が積極的に関心を持つことが大切である。

第2章 子どもの発達

第3章 「ねらい」および「内容」

第4章 低年齢児の保育実施上の配慮事項

ほとんどの保育者が高評価だった。安心感と信頼感のある保育でしっかりと基盤を作り、常に子どもの思いや関心事に心と目を向けられるよう、丁寧に関わることが大切である。

第3章の保育内容の環境と表現の項目については少し評価のばらつきが見られた。様々な行事を通して四季を身近に感じられる環境作りなど取り入れてはいるが、子どもが自分から環境に関わり、自発的に活動し様々な経験を積んでいけるような配慮の工夫が必要であると感じた。子どもにとって魅力ある環境の構成の工夫が課題であると思う。

表現に関して、今年は鍵盤ハーモニカの必要性を皆で考え、そこから園としての楽器の取り入れ方を再確認でき良かったと思う。

第5章 指導計画作成に当たって配慮すべき事項

ほとんどの設問が高評価でした。日々成長する子どもたちを見守る中で、保育のねらいに対して、子どもたちがどのような様子だったのか、援助方法は適切だったのかを考えて指導計画の作成に活かすことが大切だと思う。振り返りが大切であり、そこから私たちの保育の質の向上が目指せると思う。

第6章 研修と自己評価

少しずつ色々な研修が戻りつつある。積極的に参加していきたい。

第7章 子育て支援

おしゃべりサロン等地域の家庭を対象とした子育ての支援の取組みが弱かったということが大きな反省点である。それも大切な園の取組みの一つとして工夫し積極的に行っていきたい。